SSKRゼンコロNo.134（増刊）通巻3968号2003年12月18日発行

一九九二年四月十七日第三種郵便物認可（毎月三回七の日発行）

ZENCOLO

ゼンコロ

SSKR コロニー
2004. 1
No.134

社団法人ゼンコロ
〒165-0023　東京都
中野区江原町２－６－７
電話 03-3952-6166

私たちの誓い

1．私たちは、試されたことのない道を自分たちの手できりひらく開拓者の心をもち続けます。
（開拓者の心）

2．私たちは、さまざまな困難を乗りこえ、働くことをつうじて積極的に社会に貢献することをめざします。
（働く喜び）

3．私たちは、ひとりひとりの多様な可能性を信じて、新しい能力を育てる努力を続けます。
（可能性の追求）

4．私たちは、お互いに協力し、励まし合い、かわることのない連帯でしあわせを築きます。
（連帯と協力）

5．私たちは、心を合わせて、すべての人がもっとも人間らしく生きることのできる平和で豊かな社会の実現をめざします。
（豊かな社会）

『風からの便り』

家の庭に咲いているチューリップの花を見てふと、なつかしい"風"を感じました。文明が発達している現在、自然からの便りがとても心地よく感じた今日この頃です。
（作：山形福祉工場生産部
プリプレス第１課
阿部由紀子）

重度障害者の職域の拡大を！重度障害者の完全就労と雇用を！障害者の社会参加を！（ゼンコロメインテーマ）

・青森県コロニー協会・青森市017（728）5621・山形県コロニー協会・山形市0236（22）9755・長野若槻園・長野市026（296）1415・東京コロニー・中野区03（3952）6166・東京アフターケア協会・清瀬市0424（91）1236・あかつきコロニー・武蔵村山市0425（60）7840・京都梅花園・城陽市0774（52）1362・山口県コロニー協会・防府市0835（32）0069・福岡コロニー・粕屋郡092（963）2781・佐賀春光園・三養基郡0942（94）2144・熊本県コロニー協会・熊本市096（353）1291・沖縄コロニー・浦添市098（877）3344

ゼンコロホームページ http://www.tocolo.or.jp/zencolo

新「アジア太平洋障害者の十年」（2003～2012）を推進しよう

理事会・第43回総会報告

事務局

11月20、21日の２日間、佐賀春光園の会場等の準備の下で福岡県久留米市「ハイネスホテル・久留米」で理事会、第43回総会を開催しました。以下、報告をいたします。

◇理事会（11月20日午前９時30分～12時）

理事会成立確認のもと、次の議案が審議され了承されました。

第１号議案　事業執行状況に関する件
　（１）第42回総会決定事項の執行状況
　（２）事業計画・予算の執行状況
　（３）その他

第２号議案　第43回総会に関する件
　（１）議長および議事録署名人の推薦
　（２）選任役員等の推薦
　（３）企画・総務委員会の正副委員長の追認
　（４）付議事項について

第３号議案　その他

冒頭、勝又会長から年度中間で開催していた従来の「拡大理事会」を、今回は総会に切り換え、事業執行状況や役員改選その他の議案を正式に了承していただくこととしたい旨の提案がなされ、了承されました。今後は年４回の理事会開催とあわせ、年２回の総会をもって活動することとされました。また役員改選について、監事１名の退任に伴い後任者の人選と総会への提案が承認されました。企画・総務委員会の委員長、副委員長は次のとおり追認されました。

・**委 員 長　高　橋　毅**（あかつきコロニー　施設長）
・**副委員長　佐久川清美**（沖縄コロニー　総務部長）
・　〃　　**加藤留美子**（東京コロニー　福祉事業本部長）

◇第43回総会（11月20日午後１時～５時、21日午前９時～12時）

総会では次の議案が審議され、承認されました。

第１号議案　議事録署名人の選出に関する件

第２号議案　調査活動に関する件
　（１）福祉工場実態調査
　（２）生保・社会事業授産施設の実態調査

第３号議案　３委員会の活動に関する件
　（１）企画・総務委員会
　（２）新規事業委員会
　（３）印刷事業委員会

第４号議案　事業計画にもとづく新事業提案に関する件
　（１）「きょうされん」との共同研究事業について
　（２）国際活動への参加について

第５号議案　その他の上半期事業の状況に関する件
　（１）中間決算について
　（２）その他

第６号議案　最近の障害者福祉の動向と対策に関する件
　（１）セルプ協にかかわる動向
　（２）障害者施策に関する国内動向

第７号議案　会員法人の現況報告に関する件

第８号議案　今後の日程等に関する件
（１）次回開催地
（２）拡大理事会を総会にすることについて

主な討議内容は次のとおりです。
○調査活動に関する件；今回実施した福祉工場実態調査で顕在化の著しい、最低賃金適用除外や高齢化、定員に対する充足率・障害者比率の低下など、諸課題や問題点の実態が報告されました。福祉工場制度については、その創設時にゼンコロとして提案した経緯などから、報告された諸課題を分析検討するため、ゼンコロとして外部専門家を中心に研究会を発足させることの是非が提案され、実施する方向で承認されました。また、生保･社会事業授産施設の実態調査ではセルプ協の活動を支援する立場から、ゼンコロとしてはセルプ協との共同研究事業として位置づけ、必要な活動費の支出（全国社会就労センター協議会）や人的支援を行うことが提案され、承認されました。

○３委員会の活動に関する件；「企画･総務委員会」からはゼンコロに対する思いが会員法人の職員や利用者に希薄になっている状況が見受けられることなどから、情報交換の場や各種研修等の必要性が意見として寄せられているとして、これらに対する取組みが提案され承認されました。また、情報発信などについては従前以上に活発化していくことが確認されました。
「新規事業委員会」は、今年６月より沖縄コロニーから１名が東京常駐となり、新規事業の専任としての事務局員（新規事業委員長）とともに活動を開始したこと、および委員会としてリサイクル・環境事業を中心に取組んでいることが報告、承認されました。この活動に併せ会員法人より「蓄光材」（蛍光塗料の十倍の明るさの素材）をベンチャー企業とタイアップしての製造、販売事業の開始や、うどんの製造・販売を始めたことなどが報告されました。リサイクル事業に関わるゼンコロとしての具体的な仕入、販売事業は下半期から事業実績が計上され始めていることも委員長から報告されました。
「印刷事業委員会」からは、西日本ブロックで技術交流研修会が実施され、作業者レベルの交流会が有意義であったことの報告がなされました。また、単に１事業所、１法人で対応するだけでなく、ゼンコロのスケールメリットを活かした仕入や情報交換などにより、印刷事業としての新たな展開の可能性について確認されました。なお、品質基準の統一や専任職員による全国的視野での取組みが提起されましたが、委員会としての継続事項とされました。

○役員人事；監事・荻尾章氏の後任として登山彩文氏（東京アフターケア協会）が推薦・提案され、承認されました。

○その他の議案；事業計画において取組むとされていました「きょうされん」との共同研究については、両組織での協議の場を設け、その内容を確定することを改めて確認しました。また、ワーカビリティ･インターナショナルへの加盟などゼンコロに対し参加要請があった国際的事項についても報告がなされ、国内における障害者施策の現状等についても協議と報告がなされ、必要な事項については決定されました。

○次年度以降の総会開催地域について
・2004年６月開催　　青森県内
・2004年11月開催　　沖縄県内
・2005年６月開催　　熊本県内
とすることが確認されました。

◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇

この総会における「企画・総務委員会」からの提案により、本誌については同委員会の責任により編集することとなり、本格的には次年度からとするもののパイロット的に本号においては「新しい事業や取組み」をテーマに、各会員法人ごとに１ページを提供し、自主的に編集したものとさせていただきました。ご意見等を事務局にお寄せいただけたらと存じます。

ゼンコロの各法人
ゼンコロに加盟する12法人が、新しい取組みを中心として法人の事業を報告するページを作成しました。

新しい事業が動き始めた沖縄コロニー

沖縄コロニーでの新しい取り組みは平成15年に未開の土地を開墾し、まいた種がようやく芽をだしてきたかなというところです。低迷する印刷事業から、新規分野を開拓してのリサイクル事業と、これまでの実績をもとに事業として取り組む福祉事業が動き出しました。

◇ リサイクル事業

ゼンコロ新規事業委員会で取り組みはじめたリサイクル関連の事業を当法人でも独自で取り組みを開始。ゼンコロと同一歩調をとって、まず動くことから始めようと考え、新規事業担当を東京へ派遣しています。

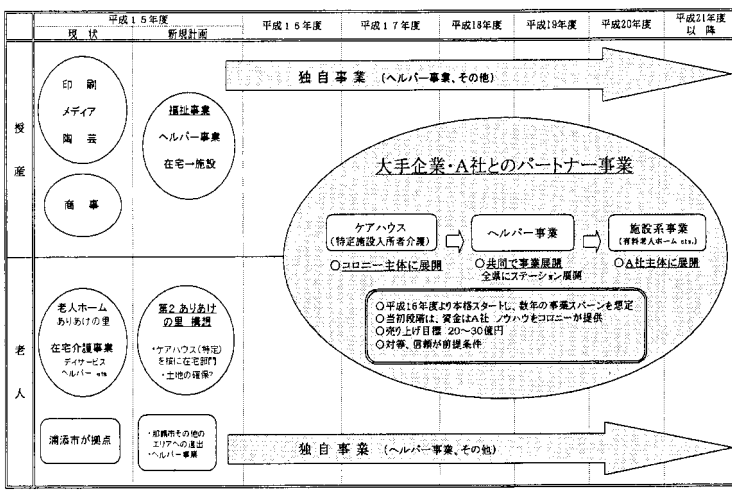
慣れない東京のマップ片手になんとか奮闘中。事業内容は①廃プラ②スチール缶・アルミ缶③その他（食品・古紙・その他）のリサイクルです。特に② のスチール缶 ・アルミ缶をメインに担当する事になり、ようや<第１回目の空容器事業を10月15日無事に始める事が出来ました。
スタートから１ヶ月半、11月末現在月間50トンの取引状況です。予定では今年度中に500トン／m、将来的に2,000トン／mが目標です。多<の人との出会いを財産にますますリサイクル事業に邁進します。（東京・比嘉）

◇ 福祉事業の展開

福祉事業(介護事業)は、これまでの特養老人ホームや在宅介護事業で培ってきたノウ ハウと介護保険制度による事業的な成功体験を基に、支援費制度においても事業展開のチャンスと捉え、身体障害者ヘルパー事業等の新規福祉事業への進出を15年度 の事業計画の柱のひとつとして、計画推進してきました。既に第１号の身障ヘルパーステーションを立ち上げ事業開始しており、現在は２号店開設にむけ鋭意準備中です。

一方、新規の施設（老人ホーム）を核とした『第２ありあけの里構想』も、介護事業への進出に意欲的な大手企業との提携により事業推進が可能になりました。

現在双方でプロジェクトチームを組み、パートナー事業としての計画を立案中。



図：沖縄コロニー新規福祉事業の展開

新施設（知的障害者通所授産）建設・蓄光材生産に着手！

熊本県コロニー協会

懸案だった熊本コロニー作業所の建替えと知的障害者通所授産施設開設が、平成15年度、16年度の社会福祉施設等施設費及び設備整備費の補助金を受け実施できることになりました。

井戸の跡

発掘風景

現在、建設予定地の埋蔵文化財の発掘調査が継続中ですが、弥生時代後期の土器をはじめ室町時代の屋敷跡の柱や石囲いされた古井戸などが発掘されています。予定では、建築申請及び補助金交付本申請認可後、この１月には建築工事に着手、平成16年10月頃竣工し、新施設・知的障害者通所授産施設「旦過園（たんがえん）」を11月には開所できることになっています。

熊本コロニーは、一貫して身体障害者の就労事業に専念してきましたが、創立55年目にして、はじめて知的障害者の通所授産施設を手がけることになります。歴史的転換期にいまある、わけです。これまでは「コロニー印刷」として、社会事業授産と福祉工場の二施設を一体的に運営してきました。しかも、雇用を大前提にした事業を堅持してきました。しかし、身体障害者の職業的重度化を、就労を希望する人々の面談相談を重ねる度に痛感させられてきました。雇用に即対応できる方が少なくなってきています。また、養護学校卒業後の就労先も、一般企業ではなおその窓口は狭くなっています。養護学校の現場実習を積極的に受入れて、卒後の対応に結びつけることもしてきています。今回の三施設運営を機会に、それぞれの役割にそって障害者の就労の場を確立することになります。

知的障害者通所授産施設の定員は30名です。既に12名の知的障害者を社会事業授産で受入れ、福祉工場の仕上工程の一部を担っています。平成17年4月には定員まで利用者を受け入れる予定でいます。授産科目は、現行のほかに2業種位増やして対応する予定で目下検討中です。

授産施設、ベンチャー企業と連携

熊本コロニー作業所　蓄光材を生産へ

障害者の新しいビジネスモデルに

熊本市二本木の社会福祉法人「熊コロニー協会」（笠間正俊理事長）は十月中旬から、同法人運営の授産施設「熊本コロニー作業所」で、福岡市のベンチャー企業（ウェブテックジャパン）（内田研志社長）が開発した高性能蓄光材の生産を始める。仲介した熊本市のNPO法人「自立応援団」の平賀幸雄理事長は「障害者の新しいビジネスモデルになってほしい」と期待している。

蓄光材は、太陽光や電灯の光を吸収し、暗やみで発光する粉末状の物質。同社は、光の到達度を従来の〇・五％から三％にすることに成功した。

この「ことを知った平賀理事長が、福祉施設への生産業務を紹介したい」と考え、今年五月に「特許委託」を同社に提案した。内田社長さんも「仕事をたくさんの障害者に提供することで、障害者の就労を発揮する、非常口の誘導表示や視覚障害者の誘導ブロックなどのユニバーサルデザインの実現に役立てる製品づくりは、健常者にとっても意味のある社会参加になる。これを機に、最低賃金の水準に近づけたい」と意気込む。

仲介した平賀理事長は「授産施設の仕事は地道なだけに中心だったが、今回の事業は十分、経済的な活動になる。社会福祉法人とベンチャーがチームを組めることを示したい」と話している。

熊本日日新聞（2003.10.9）

高性能「蓄光材」生産はじまる！

社会事業授産熊本コロニー作業所は、これまで印刷事業を福祉工場と一体的に運営してきました。しかし、これからは、職業的により重度な障害者の就労支援の場として位置付け、障害者個々人に対応した就労訓練を主軸に運営していくことになります。

新規事業開拓を模索している中で、今回、熊本のＮＰＯ法人「自立応援団」を仲介に、福岡のベンチャー企業「ウェブテックジャパン」と提携した新規事業に着手しました。当初の機器設備に約2,000万円を投資して始めました。同社が開発した高性能《蓄光材》の生産部門を担う事業です。（左図地元紙「熊日」切抜き参照）。目下量産できる生産体制の確立に向け鋭意取組んでいるところです。

●テーマ「新しい事業や取り組み」

明けましておめでとうございます

■ 利用者へのサービス

新年号ということで、何か新しい取り組みをとのことですので、春光園で始めている新しいサービスについて二つほど簡単に説明したいと思います。

1つ目は、「自己啓発・社会参加活動助成制度」です。利用者の方の中には、普段からＪＲやタクシーを使って、野球観戦（去年はダイエー優勝だったので例年より更に観戦数が増えました）やショッピング、映画鑑賞になどに行かれる方がいらっしゃいます。そこで、このような利用者の方がもっと社会参加しやすいようにということで、一年に一万円を上限として、交通費や社会参加費を助成するサービスをもうけました。

利用者は誰でもサービスを利用する事ができます。評判はすこぶる良く、去年は十数名の方が利用されました。今年はさらに利用される方が増えると思います。利用者の中には、自分が参加している「障害者プロレス」の交通費に使ってらっしゃる方もいらっしゃいます。このサービスをきっかけに、利用者の方がどんどん街や、社会活動に参加されたらと思っています。

2つ目は、「インターネット接続サービス」です。東京コロニーさんのような都会では、もう当たり前のサービスかもしれませんが、佐賀のしかも郡部では、なかなか常時接続サービスが来てませんでした。それで、どうしてもインターネットを利用したい方は、ＰＨＳを使っておられました。

しかし、去年から春光園のエリアもようやく、ＡＤＳＬのサービス地域に入り、早速検討を始めました。利用者の公募からアンケート調査などを行い、施設長、業者さんとの打ち合わせを行って去年の９月から始めています。スピードも数メガビットでて、「何より数千円でつなぎ放題はうれしい」とのことでした。これも、サービスを利用される方は増えそうです。ネットを利用してのショッピングや郵送レンタルＤＶＤサービスを利用されているのも普通になってきています。

以上二つの新しいサービスを紹介してみました。皆さんの施設にもいろいろな独自のサービスがあるかと思います。一度ゼンコロで、出し合ってみるのも新鮮な驚きがあっていいかもしれませんね。

それでは、今年もみなさまにとって飛躍の年となりますよう心から祈願いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

企画総務委員 木塚 大成

■ 新規事業の取り組み

ゼンコロで新規事業委員会を立ち上げて、はや２年が過ぎようとしています。委員会での情報交換、報告等ででた事業が各法人具体的な形になってきています。

地球環境問題（有害ダイオキシン等）が深刻な中、21世紀が「環境の世紀」といわれており、当法人としては家庭でゴミの焼却処分が出来なくなっている所に焦点をおいて、通常家庭の焼却炉で処理できないものまで磁気の原子によって出来る磁場エネルギーの力で低温処理でき、灰（セラミック）になる。灰については資源（リサイクル）に変わる「リサイクルゴミ処理機」を委員会当初紹介していたのですが、いまだに検討中で進んでいません。その他法人内の新規事業委員会を作り３人にて、新しい取り組みへ…。

早く目指す事業を明らかにして、授産運営の安定化を図れたらと思います。

新規事業委員　中村　武

パナソニック組版機 J200

〒849-0101
佐賀県三養基郡中原町原古賀6994
TEL0942-94-2144 FAX0942-94-3900

印刷・電子部品組立・ＥＭボカシ　佐賀春光園

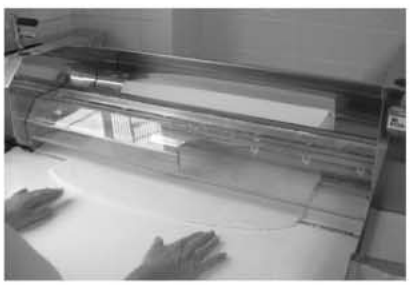
うどん製造・販売　本格的スタート

福岡コロニー　開発室長　若杉義光

平成１５年度から新規事業への取り組みが専任スタッフでスタートしました。

グランドカバー「ガザニア」や土嚢「ラピッドワップ」の販売につづき、長年検討してきた製麺事業が本格的に動き出しました。

ガザニアや土嚢の販売は国道事務所や自治体を中心にＰＲ活動を展開し、少しずつですが実績を上げることができました。必要となる時期や予算との関係で、ＰＲのタイミングが難しい面もありますが、経験と実績を生かした販売活動を今後も継続したいと思います。



生地を伸ばしている様子

＜製麺事業＞

現在、重点的に取り組んでいる製麺事業は、今後販売が軌道に乗れば、製麺工程で障害者の働く場が拡がる大きな可能性を秘めており、地域に密着した販売活動で障害者運動の展開へもその可能性は拡がるものと思います。

小麦粉、塩、水の微妙な配合で味が決まるといわれ、試行錯誤のうえに何とかお客様に喜んでいただける、納得のいく「うどん」ができあがり、１０月から授産利用者４名を配置し、本格的な製造・販売活動がスタートしました。印刷事業が低迷するなか、製麺事業は授産施設の新職種の一つとして、その成否は今後に大きな影響を及ぼすため、全力を上げて取り組んでいきたいと思います。

山口県コロニー協会

隅　人　愚　想

常務理事　北　乗　吉　道

加盟団体「ゼンコロ」の機関誌に寄稿するのは今回が初めである。しかも、「新しい事業や取り組みについて」加盟法人の紹介を、との命題付である。誠に難題であり且つ報告すべきものを持ち合わせていない身にとっては苦痛と言う外なにもない。

よって、近時の事々についての雑感を隅人の私見と想いを込めて述べさせて頂くが、必ずしも正鵠を射ているとは限らないことを先ずはお断わりして、以下想いの儘述べさせて頂く。

昨今の聖域無き構造改革の名のもと、社会福祉分野においても介護保険制度、支援費制度の実施等の改革が断行されていることについて、各々の制度の善し悪し等に関して様々な声が囁かれているが、その声の出所を見つめるにつけ、賛否は自が身の保身・利前からのものとしか思えず、逆説的には少々安心感も覚えているところである。所詮、小人の想いは大差無いものかと。

「障害者の労働者性の確保」について、よくもまあ真剣に論議されたものだと感心させられる。現行の我が国の如何なる諸法に照らしてかく論議されたのか、隅人には理解の外である。人が人として生まれ出た瞬間より当然の権利として保持しているものを、何かの条件・制約を付してことさらに付与するとか、摩訶不思議な話であると考えるは、現状認識不足の隅人故なのであろうか。だとしたら、人は何時の時点から人としての存在を認知されたのか、これ又、理解に苦しむのだが。

国の来年度予算案の一項目について。障害者の一般企業への雇用促進に関しての図入り説明を目にした時、真に目が点になりました。授産施設等から大きく太い線で移行の矢印があり、社会就労センター関係者の思いは兎も角、障害者を囲い込んでいる悪の根源との認識に立っているとしか思えない施策には、悪寒を覚えずにはいられず、更に、福祉工場も同一視されているとなれば、福祉工場の創設に心血を注がれたゼンコロ先達の胸中は、否、これこそが究極の道程か。

ゼンコロNO.133「会長に再任されて」について。ゼンコロは担ぐ「御輿」を過去も現在も間違う程愚かとは思いませんが如何でしょう。社会情勢・環境は異なるとも、又、表現方法は同一でないにしろ、各々が先達よりそれぞれ受け継いだ「心」は脈々と生き続けていると思うのは隅人の一人合点でしょうか。最も、加盟法人所属員個々人の心、「共に主体者」としての意識の不確かさは否めませんが。これも又よしです。何れにしろ「自らの変革を選択できない組織は自ら結論が出てしまう」との会長指摘はその通りでしょう。唯、「社会福祉法人」である以上福祉事業を根幹にした上での事業経営を、は、隅人故にこのことへの理解には及びませんが、何時の日にか「社会福祉法人」と言う冠を脱ぎ、各々の法人創設者が心の拠り所、兄弟として集える場として築かれたであろう「全コロ」となって未来に向かって航海している様を願う。

先ずは、自が足もとを見据えて、すべきことを是々非々で・・・笑止なり隅人（自戒せよか）

山口弁を知っちょる！

日ごろ知らず知らずのうちに使っている「方言」。温かみを感じさせてくれますね。そんな山口県の方言（山口弁）をいくつか紹介しますので「そねーなこたー、知っちょるちゃ（そんなことは、知ってるよ）」と言わず読んでください。

若い人はあまり使いませんが「のんた」は古くからある山口弁です。「さむー（寒く）なったのんた」のように、話の終わり等に付け、感動を強調する場合などに使います。もとは「のー（ねえ）あんた」という親愛の気持ちを込めて語り掛ける言い方を短くしたものです。また、疲れたときの「えらい」・「だらしー」や「どひょうし（たいへん又は非常に）」「ほろける（落ちる）」「かるー（（包みを）背負う）」「はしる（（歯が）痛い）」など昔から使われている山口弁です。

「ぶちおいしい」の「ぶち」は意味を強める副詞ですが、昔はこうした使い方はなく、30年前ごろからよく使われるようになった新しい方言なのです。

いつの日か山口県へこられこんな言葉を聞かれたら、あ～あそうかと意味を解釈してください。又こんな言葉を聞いたけどどういう意味かと興味あればお知らせください。山口弁は山口県の文化の一つでもあります。

人と人とのつながりを深めるふるさとの言葉として伝えていきたいものです。（山口県広報課資料参照）

社会福祉法人　京都梅花園

新規事業の今

当法人では、ゼンコロ本部事業部の御指導のもとにリサイクル事業を進めています。

リサイクル事業の主たる回収品目はPETボトルのキャップを中心とした廃プラであり、回収を始めて約４ヶ月が経ちましたが、その経過の中で今後問題として考えていかなければならないことが見えてきました。たとえば回収する廃プラの中にも高価な物又安価な物があり、出来るだけ高価な廃プラを排出する事業体を探し出さなければならないと言うことと、その集めた廃プラを高価で買い取ってくれる業者に売却する、言葉にすれば簡単なのですが、これが意外と難しくて、運送便・ストックヤード・売却時期等多々ありますし、その上今後事業を発展させるためには、回収のスピードも重要になってくると思います。

今後、各法人がリサイクルを進めていく上で考えていかなければならないことは、ゼンコロ本部事業部との役割分担を明確にしてビジネスとして割り切り、新しい事業を開拓していくことが一番のポイントになるのではと考えています。

法人独自の新規事業の企画進行について

今までに無い、作業種目の開拓を目的に４月より事業部を立ち上げて来ましたが現在のところでは、これと言えるものに出くわしておりません。

お金が掛からなく、且つ世間の人が困っていて、その事業を行う事で喜んで頂ける物が何かを探して行く事が毎日の作業だと考えております。

京都産業21での情報やインテックス大阪などでのイベントに出かけて、企業同士の情報交換の中で、何か施設として関われる事が無いかを検討しています。

本法人が検討中の作業種目の開拓としては新開発された機械による、現在のサービスの改善を目的とする介助者の手間をはぶく、安価なクリーニング事業の整備を考えています、初期設備投資額に見合うだけの需要と供給が見込まれるか、将来性があるのかどうかを調査する事を検討課題として課せられており、現在取組中です。

（事業部　石井久之・大西正博）

AKATUKI COLONY　あかつきコロニー

職員研修

当所では今年度より、職場内研修（OJT）に力を注いでいます。従来も研修は実施してきましたが、職場外研修（OFF JT）が中心で、また研修後のケアも特に行わず、せっかくの研修で得た情報も活用出来ていませんでした。また日常の作業の忙しさから、急速な移り変わりをしている福祉へのアプローチも十分とはいえない状況でした。

“今のままでは新たな福祉の展開についていけない”

“５年・10年先あかつきは潰れるぞ”という危機感を持ち、まず基本はマンパワーだという観点から、研修体制を引きました。

具体的には、新人職員、中堅職員、主任と３グループに分け、月１～２回のペースですが職場内研修を行っています。下半期から実施していますので、まだ基礎講座の段階ですが、講習・研修報告・グループ討議の方法で、施設職員としての自覚、施設職員専門性・作業専門性の必要性の理解、即応性を身につける、リーダーシップの発揮、等々、段階的に取り組んでいきたいと思っています。

支援費制度に移行し、サービスの質が問われるようになり、授産事業に重点をおいてきたあかつきコロニーも、今までどおりの継承ではなく、一般就労支援等新たな支援を視野に入れた取り組みが必要になると思います。しかし職員一人ひとりがそういった視野を持たなければならず、現状でも忙しい状況なのに、なお且つ新たな支援を取り組んでいくことは大変です。

一番大切なことは動機付け（モチベーション）を職員一人ひとりが持つことが出来るかにかかると思います。難しい課題ですが、“変わるべき時に変われる”か“しみついた錆”を削ぎ落とせるか、真価が問われていると考えています。（髙橋）

喫茶コーナー「茶花」

喫茶コーナー「茶花」は、昨年４月に武蔵村山市民総合センター内にオープンしました。あかつきコロニーを含む市内４つの福祉作業所が共同で運営しています。すでに２年近くなりますが、他施設との連携もスムーズになり、運営も安定してきました。

喫茶店ですが、ご飯物メニューにも力を入れていて、日替わり定食が人気メニューとなっています。献立や仕込みが大変ですが、会館内の職員や市民の方に好評で、ほとんど売れ残りはありません。また市内作業所が作っている自主製品も販売しています。

施設内の作業だとなかなか外に出る機会も少なく、週１～２回ですが、利用者の方も楽しく参加しています。市民とのふれあいの場として、また接客業としての厳しさを経験でき、収益性は求められませんが、今後も続けていきたいです。（髙橋）

あかつきJAPAN 野球部物語

平成９年10月創部から６年通算成績５勝７敗という実績ですが、メンバー一人一人いつも課題を持ちながら、常に向上心を忘れず健康で楽しく活動をしています。

すでに20代の若者はいませんが、草野球と言うものは、年をとればとるほど味がでるもので、特にあかつきの「チーム一丸」となった時の強さは、『普通』です。また施設全員の方々の熱い声援をもらいながら、少しでもその方達の励ましや、話題のひとつにでもなればと思います。

自分はチームの中で投手をやっていますが、時々守りの時に孤独感を味わいます。まあそんな時は、周りの８人の仲間が何とかしてやりたいとがんばってくれるので何とも頼もしいものです。

野球をしている時は皆会社の上下関係を無くし、誰もが一つのボールに気持ちを込め、楽しいひとときを過ごしています。いつの日かチームのキャプテンとして、真紅の優勝旗を手にしてみたい、そしてインタビューで「まだプロローグに過ぎません」なんて言えるその日まで、みんなと共に夢を追い続けたいと思う35歳の幸せ者でした。（網嶋英人）

東京アフターケア協会

“走り始めたのはいつのころだろう”

先達が「ある思い」を胸に走り始めた。自らの使命を全うすべく創意・工夫・知恵そして必死の行動で走り続けてきた。そしていま、次の世代にすこしでもいい形でタスキを渡すべくがんばっています。今回はゼンコロのみなさんにそんな東京アフターケア協会をご紹介いたします。

誕生以前のこと

東京アフターケア協会のある東京都清瀬市は東京都の北西のはずれに位置し隣接するのは新座市や所沢市といった埼玉県になります。ターミナル駅池袋駅から西武池袋線を利用すると約25分で武蔵野の面影を残す清瀬に降り立つ。

昭和６年　栗、クヌギ、松などの雑木林が一面に広がる東京都北多摩郡清瀬村は大根、牛蒡、人参などを特産する純農村であった。また、無医村であった。その雑木林の一角に東京府立清瀬病院は、村議会や村民あげての反対の声に対して病院ができたら無料診察をするという条件のもと結核療養所として建つことになる。

そして昭和10年、後の信愛報恩会となる信愛ホームが、さらに昭和12年に国立療養所東京病院が建設されるなど、さほど時を経ずして大小10幾つかの療養施設が建ち、結核療養所（サナトリウム）の地として“清瀬”の地名は一躍全国的に広まってゆく。

東京アフタケア協会の誕生そしてスタート

昭和26年　朝鮮半島での戦争により日本中が特需景気に浮かれ「芸者ワルツ」「トンコ節」「お酒のむな」など、世相を反映するかのようなちょっと変わった流行歌が流れる中、ここ清瀬村では結核患者同盟のひとつの東京都患者同盟が自分たちの生命と生活を守る拠点として“結核回復者の社会復帰を援助する”という目的で東京アフタケア協会が創設される。

購入した村有の土地と設備として折からの統制品だった木材が入手困難だったため、旧国鉄の大宮機関区より購入した古客車２輌でのスタートである。障害者自らの手により清瀬村に初めての社会福祉施設を誕生させることとなる。

そして現在の東京アフターケア協会

現在、法人本部と4つの授産施設があります。

東京都清瀬喜望園（入所定員100名・職員配置基準50名）は昭和51年４月東京都の管理委託施設で日本初の重度の呼吸器機能障害者の授産施設（措置時代は重度授産施設）として法人本部から車で５分ほど離れたところにあります。授産科目は七宝、彫金、袋物、陶工芸、木彫、編み物、和洋裁、農園芸、軽作業などとなっています。

清瀬授産所・清瀬作業所・汽車の家作業所の三施設は法人本部と同所にあり、そこで三施設混合で授産事業を行っています。施設区分をはずし三施設がひとつの組織体（東京アフターケア協会）として一体化した考えのもとで運営しており、日常業務の中では、作業部署としての組織構成のほうが機能しています。

作業部門の紹介

施設間の区別をなくし作業部署としては二部署の組織編成になっています。

第一事業課

構成人員　利用者　身障46名　知的38名　職員８名　パート５名　計98名

作業内容　箱折り・ダイレクトメールなどの封入作業・エレベータ清掃用部品加工・ネジの袋詰め等。

作業時間　利用者9:00～16:00

工賃基準　個人別評価法による出来高払い制

第二事業課（プリントショップ）

構成人員　利用者　身障23名　知的４名　職員８名　パート５名　計40名

作業内容　一般印刷物、名刺、年賀状などの軽印刷・オフセット印刷（４色）・受注によるＴシャツなどへのシルクスクリーン印刷・マグカップなどの記念品製作など。

作業時間　利用者9:00～17:00

工賃基準　個人別評価法による時間給制　精勤手当、年次有給休暇あり。

これからも走り続ける・・・

いつの時代でもその身に余るほどの課題を抱えながら・・・走り続けてきた。

ときには時代の波に翻弄されたり、また、ときには自らのアイデンティティを見失いそうになるときがあるかもしれない。そんなとき、歴史を顧みて、先人に学び、自らの使命を認識しながら“いま”という時代をしっかりと走り、先達が大切に培ってきた「ある思い」を次代へとつなげて行きたいと思います。

（所長　登山　彩文）

東京コロニー

「ケース・サポート・システム」のバージョンアップ版「サポート2」のこれから

コロニー印刷所　ケースワーカー　小川弘子

利用者支援の職場では、日々の支援記録は欠かせません。利用契約制度になり、利用者へのサービスの質の向上にも今後ますます記録は支援の要として位置付けられるでしょう。

ところで、記録は書くだけではなく活用してこそ生きてきますし、生かしてこそ記録をとる意味があると思います。この記録を作成し活用するツールとして3年半前に開発した「ケース・サポート・システム」は、すでに北海道から沖縄まで多くの施設で使われていますが、もっとたくさんの方々に使っていただくために、さらに汎用的にそして操作性を高めるための改良を行って解説書を作りました。このようにしてできた「ケース・サポート・システム」の改訂版が、今回解説書付きで発売された「サポート2」です。今後の当面の計画として、以下のことを予定しています。

①「サポート2」を広めていくために講習会を開催する。また、デモをしながら見て触って体験してもらえるような機会をつくる

②比較的小規模の施設や団体向けの「サポート3」の開発を考える

③ネットワーク対応に充分応えられるシステムができるかを研究する

今回「サポート2」と命名された背景には、今後このシステムが様々な職場にマッチしたものとして利用されサポート2に続く、サポート3，4，５・・と発展していくことを期待したものです。

より良い記録活用ツールとして皆様のお役に立てることができればと思っていまので、問合せやご質問、ご意見をいただければ幸いです。

解説書は、日本社会福祉弘済会、筒井書房様の全面的なバックアップの下に完成いたしました。

（「サポート2」CD-ROM付き7000円＋税）

バス停のパン屋さん

「フタバベーカリー」開店

2003年５月より、製パン・販売業を開始しました。印刷、防災用品、ＩＴなど、カタイ事業の多かった東京コロニーに初めての食糧品部門です。地域の皆様や関係先からもおいしい！と好評です。

平成16年度厚生労働省予算概算要求事業「バーチャル工房」について

ＩＴ事業本部　職能開発室課長　堀込　真理子

来年度の厚生労働省発表の予算要求のなかには、障害者の就労を支援する新規の事業がいくつか出ています。

その中のひとつ、バーチャル工房支援事業は、私どもの担当する事業をある程度モデルとしていただいたもので要求額が237百万円であり、重度障害者の在宅就労を促進する事業として位置づけられています。実施のイメージは、都道府県・指定都市を通じて、実績ある支援団体（NPOや社会福祉法人）に委託する形となり、障害者に対して情報機器の貸与や技術指導のみならず、実際に仕事を受注し配分する機能も持ちます。

支援団体（バーチャル工房）への技術指導なども予算としてあがっており、「支援する側への支援」が準備されている点で実態にかなったものだと評価できる一方、自治体や施設の中には、継続事業であるという確約なしに専従職員を確保することへ不安もあるのが現実のようです。

課題はあるものの、私共の法人を含め先達となって苦労を重ねた結果としてこうした支援機能にスポットが当たる時代になったということは心強い限りです。まずはこれを前向きに試行し、効果を明確にしたうえで、授産などと同様に確立された施策として世の中に認知されるよう検証していく責任があるのではないかと考えます。

（2003年末の内示では、残念ながら予算化が見送られてしまいましたが、今後の動きを期待しつつ見ていきたいと思います。事務局）

あけまして おめでとうございます!!

S.O（スペシャルオリンピックス）開催に向けて

長野若槻園

スペシャルオリンピックスを成功させよう！（Catch the Spirit!）

1998年、長野で開催されました冬季オリンピックは、当然、日本中、世界中の注目を集めました。

そして、その直後に引き続き開催されました身体障害者のスポーツ大会パラリンピックも大変な注目を浴びました。

2004 Feb.　　2005 Feb. Mar.

2004年
スペシャルオリンピックス日本
冬季ナショナルゲーム ― 長野
2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・プレ大会

2005年
スペシャルオリンピックス
冬季世界大会 ― 長野
2005 Special Olympics World Winter Games

オリンピックが盛り上がるのは当然ですが、パラリンピックの成功は、この地におきまして、障害者への理解、ボランティアへの参加等、数多くのものが人々の心の中に、育ち、残りました。

街に数々の立派な施設が残され、大会成功の実績が刻まれたと同時に、そのソフト･ハード両面種々の力を再び長野におきまして集結させる機会が訪れようとしています。

それは、2004年 スペシャルオリンピックス日本・冬季長野（プレ大会）そして、2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会―長野です。スペシャルオリンピックスとは、知的発達障害者の自立と社会参加を目指し、日常的なスポーツプログラムとその成果を発表する場である競技会のことです。

「オリンピック」という称号を使う権利を与えられていますが、商業的や国家主義もなく、多くのボランティア等の活動に支えられた大会であります。

更に、2005年冬季世界大会は、アジアで初めての、そして、オリンピック施設で開催される最初のスペシャルオリンピックス世界大会となります。

80カ国を超える国々の地域から、アスリートが集まって交流を深める、長野プレ大会・世界大会において、アスリート達が安心して、真剣に競技に取り組めるように私達は、できる事から始めていこうと考えております。

プレ大会は、2004年2月と、もう目前に迫ってきております。現在、東京事務局・長野大会実行委員会が中心となり、準備が進められており、長野県や長野市・競技開催地域や周辺市町村の協力も、急激に進みつつあります。

このような状況の中で、開催地域の中でも中心的な役割の長野市にあります「長野若槻園」におきましては、当然できる限りの協力をしていきたいと考えております。

大会事務局、大会実行委員会と相互協力関係を築き、大会直前まで周知を図り、ボランティアの派遣を目指し、現在、園内にてボランティアの募集中であります。

人的・物質的な協力には当然、限界がありますが、ポスター一枚、パンフレット一部、園内の主要箇所に置き、「普段の会話の中で話題」にする事により、一人でも多くの方に、スペシャルオリンピックスの存在を知っていただき、大会が、長野とその周辺で行われる事に関心をもっていただく、そんなちょっとした事からでも協力できれば、大会終了時には、きっと素晴らしい「よい思い出」が残るものと信じております。

大会が成功し障害者への理解が深まりますよう、皆様の御理解と御協力をお願いします。

（企画部：夏目 角成）

2005年スペシャルオリンピックス
冬季世界大会―長野

山形県コロニー協会より 謹んで新年のお慶びを申し上げます。

テーマ『ここ数年の新しい取り組み』

CTP

プリプレス第２　田中　正子

昨年１月に導入した富士のサーマルタイプCTPです。現在、６種類のプレート登録をしています。フィルムレスで、コストダウン・品質向上に大きく貢献しています。

Cleeber EX

プリプレス第２　那須　伝

オンデマンド印刷機（クレバープレスEX）が導入され、ハガキ類やバラ物、納期の短いページ物などに幅広く稼動しています。

福祉車輌

プリプレス第１　稲毛　剛

後部座席のシートを外したスペースへ車に搭載されたスロープを使い、車椅子ごと中に乗りこみます。便利で乗り心地もなかなかです。行事その他で移動が必要な時は、常に利用しています。

スターオフィス

プリプレス第１　伊藤　信子

Star Office（PCネット上の仮想的に構築されたオフィス）を活用しています。職員全員がメールアドレスをもち、メール・掲示板・予定表・ファイリングなどの様々な機能を利用することが出来ます。

工場給食

福祉工場栄養士　松田　純子

今日の夕食は旬のかきフライ。
そして、山形名物の芋煮汁、山形で取た「もって菊」の浸し、ラフランス、青采の漬物です。山形ならではの、どこの家庭でも見られる素朴な料理です。
皆さんも山形に来たときは、是非食べてみてくださいね。

製パン事業

コロニーセンター　那須　孝喜

10月１日、コロニーベーカリーガオープンしました。イーストフードや乳化剤等を入れて、老化制御効果を向上させている店が多い中、コロニーベーカリーのパンは、無添加で体にやさしいパンを作っています。ぜひ一度お試し下さい。
（援助員　製パン担当　姉崎政子）

中綴じ機

印刷製本　佐藤　暁子

平成13年度に、中綴じ機（SPF-20A、ST-40、VAC-100）が導入されました。印刷物の取り値が下がってきたことや、外注費の削減を図るために導入しましたが、現在、稼働率をいかに上げていくかが課題となっています。

吊橋開通

庶務厚生担当　鈴木　裕子

平成13年７月に開通した、「さくらだばし」です。蔵王山系から流れる鳴沢川と坂巻川の合流地点、丁度福祉工場東側にあります。この橋は、あの瀬戸大橋と同じ工法で造られているそうですが、片側から吊られている珍しい橋です。

11/6~8　センター研修旅行
東京（草津）

9/4~6　福祉工場研修旅行
北海道（小樽・函館）

コロニーセンターでは、今回春と秋の研修旅行を一緒にして、11月６日から２泊３日で草津温泉と東京ドーム見学へ行きました。温泉に入って日頃の疲れを癒して楽しい研修旅行となりました。

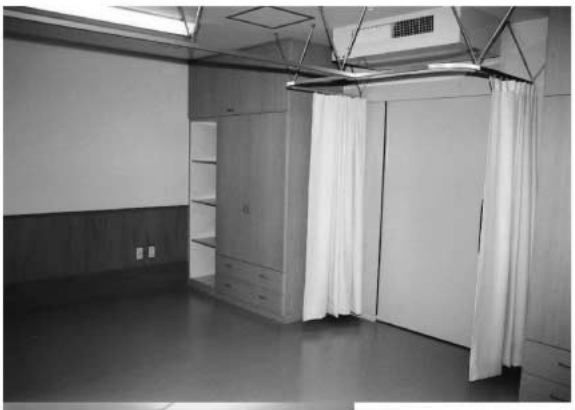
http://www.yamagata-colony.or.jp/

青森コロニー

身体障害者授産施設青森コロニーリハビリ宿舎増築の完成についてのお知らせ

平成15年６月20日より既存宿舎棟の改修工事及び新宿舎増築工事を進めてまいりましたが、平成15年10月25日無事完了いたしました。このことにより全居室が個室と２人用となり、居室面積は倍ぐらいの広い面積になり利用者のプライバシー保護の確立ができ、大きく生活環境が向上し、利用者に喜ばれています。

【新宿舎棟居室】



↑２人用居室

←個室

カラーマネジメントへの取り組み

昨年の12月よりカラーマネジメントに取り組みました。カラーマネジメントのメリットは、①カラーマネジメントでクライアントの信頼を得ることができる。②客観的な「色の数値化」によってプリプレス、プレスの作業工程がスムーズに進行できる。③カラーマネジメントで今まで削減できなかった「工程の繰り返しや後戻り」などのロスや事故、資源の無駄を省くことができる。④ベテランの勘や職人芸に頼っていたカラーマネジメントが「標準化」できるなどこの４つが挙げられます。インプットからアウトプットまで一貫したカラーマネジメントをすることによるメリットは非常に大きいものがあります。デジタルになっての最大のメリットはこの「標準化」ができることです。今まで「数値化」することが難しかった「色」をマネジメントでき、ベテランのスキルを標準化で共有できればその効果は非常に大きく、当福祉工場においてもハイデル社の印刷機及び２台目のCPCの導入を機に今までの管理方法の見直しに着手しました。以前のような色管理による製品の排出ではデジタル化の恩恵を阻害してしまう傾向にありました。また今後厳しい印刷業界にあっては製品共々その技術の統一性と一貫したカラーマネジメントがなければ他社に対する差別化ができません。クライアントに満足していただけるものそんな製品への拘りがより必要になってきています。これが製品に対する「標準化」です。今までは印刷業に「標準化」と言うものは不必要なものと考えてきましたが、デジタル化に伴う色の管理は「数値化」によって可能になりました。いわゆる「数値管理」と言うものが出現し、分光濃度計・CPC－24などの精密な濃度計が現れ、刷了紙の色むらが数値（Lab）に置き換えられ、そのLabを管理することができるようになりました。この管理こそがカラーマネジメントとして本来の意義であり共通の理解を得ることができるのです。しかしながらデバイス・インディペンデントなカラーマネジメントであるモニタ、スキャナ、プリンタの各種デバイスによって「色の再現性」が異なるものをより忠実なものに実現しなければデジタルプルーフはおぼつかないし、「色の再現性」の問題は簡単なものではありません。プレスでのLabが変化しなければカラーマネジメントは確立したといっても過言ではないが、印刷された製品の品質保証がここで確立されることは言うまでもありません。先ずは正確な「色」を定義しなければということで「基準となる色」を定義し、その基準色を作ることを目標に掲げました。正確な色測定を行い数値化して行く。取り組んで行く前は不安だらけでしたが、現在に至っては製版・印刷が一体になり、お客様に信頼される高品質な印刷物を提供できるまでになっています。カラーマネジメントを実現するには関わりのある人全員が決められたルールを忠実に守らなければなりません。インプットからアウトプットまでの工程で誰かが一人でも「ルール違反」をすると成り立たないものと認識しています。今後においては福祉工場独自のワークシートにそってLabを管理しながら更に高品質な製品作りを目指して行かなければならず、現在はその最後の詰めを行っています。

（青森福祉工場管理部副部長　伊藤慎一）

名刺・葉書オンデマンドプリンティングのひとつの解答。

MUSASHI

バリアブル印刷機能が新しい付加価値を生む

NEW MP-2000 Pro

バリアブル印刷機能搭載　名刺・ハガキプリントシステム

新規採用PEGヘッドで印字がさらにシャープに!

信頼の印字位置精度と耐久性!

斜め印刷を防止するフロントトレイ機能搭載!
コンパクト、静音設計。バリアブル印刷機能搭載

自動レイアウト機能付きOCRで複雑な作業も簡単
多彩な機能の専用ソフトで編集作業も思いのまま

難しい漢字も独自の異体字変換システムで一発変換
組版機や市販ソフトも使え、MACのネットワークにも対応

わからない事は音声画像付きHELP機能と電話でサポート
全国オンサイト修理で故障もサポート

連番印刷や宛名印刷で高付加価値ビジネス

ＭＰ－2000ProVは、高精度インクリボン方式の名刺・ハガキプリントシステムです。名刺やハガキ、年賀状などの高品質印刷物を簡単に作成できます。バリアブル機能の追加により、宛名印刷や連番印刷の可変プリントが可能になりました。
少ない投資で高い付加価値を生む画期的なオンデマンドプリンティングシステムです。

（製造元）ダイニック株式会社　（発売元）株式会社ムサシ　http://www.musashinet.co.jp

本社　〒104-0061　東京都中央区銀座8-20-36
IPS営業推進部　03-3546-7717
東京支店　03-3546-7716
札幌支店　011-551-6911
仙台支店　022-227-9185
北関東支店　048-640-5795
東関東支店　043-202-7581
神奈川支店　045-461-3400
名古屋支店　052-581-7307
大阪支店　06-6745-1634
中国支店　082-232-9261
福岡支店　092-751-7818

FUJIFILM
I&I－Imaging & Information

新世代ＣＴＰ湿し水

ECOLITY-1

■CTP版上のシャープな網点を、印刷物上でも高品質に再現
■抜群の安定性で「印刷標準化のための基準づくり」に貢献
■PS版にも効果を発揮し、オフ輪にも枚葉にも使える万能タイプ

i-Communication

美しさをまもりぬく、
CTP思いの湿し水。

富士フイルム グラフィックシステムズ株式会社　本社　〒104-8186　東京都中央区銀座7丁目10番5号　TEL 03(3572)8071　ホームページ　http://www.ffgs.co.jp

福祉施設の企画・総合計画・改造計画・設計監理

ー確かな経験と豊富な実績ー
　昭和44年の創業以来、北海道から沖縄まで全国各地に350件の公立・民間の福祉・医療施設建設を手がけた、数多くの経験と実績があります。施設の移転計画、増改築計画等、どんなことでもお気軽にご相談ください。計画・申請から設計／監理にいたるまで一貫したお手伝いをさせていただきます。

株式会社　新環境設計
代表取締役　平松良洋
〒113-0033　東京都文京区本郷4-10-7　本郷MKビル
TEL. 03-5800-0321　FAX. 03-5800-0505

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
新春号は、特別企画として、テーマを「新しい事業や取り組み」とし各法人が１ページを担当する形で構成させていただきました。
これからも、外に向ってのアピールはもちろんのこと、ゼンコロに属する皆さんに身近に感じてもらえる紙面づくりを企画総務委員会と共に工夫していきたいと思います。
今年もどうぞ宜しくお願いいたします。　（事務局）

一九九二年四月十七日第三種郵便物認可（毎月三回七の日発行）

発行人　障害者団体定期刊行物協会　東京都世田谷区砧6－26－21
編集人　社団法人　ゼンコロ　東京都中野区江原町2－6－7
頒価百円